

# 間伐材などの有効活用のために、 どんな取り組みをしているの？

建築用材としての間伐材のさらなる利用促進を行っていると同時に、  
間伐材や今まで使われていなかった木質資源(木質バイオマス)の  
新たな活用方法を創出する取り組みがさかんに行われてきています。

健全な山の育成にはかせない「間伐」。間伐材を利用することは、そのまま「山を元気にするために一役買う」ことにつながります。

間伐材といっても、形や質の良いものは、主伐材(最終的な木材の収穫のために行った伐採で得た木材)と同様に市場に出荷され、建築用材となります。

建築用材となるまでには至らない細い材(小径材)でも、昔から建築現場で使用する足場丸太、土木工事用の木杭などさまざまな形で使われてきましたが、時代の移

り変わりとともに素材も変化し、これまで行われてきた形での間伐材利用は減ってしまいました。

しかし近年、木材の価値が見直されるとともに、森林整備の推進といった背景のもと、間伐材の利用促進への機運が高まり、全国的にも活発な取り組みが行われています。

さらに、木を加工する際に発生する樹皮や、山に捨て置かれた林地残材などの未利用木質資源(木質バイオマス)の新たな活用方法も広く注目されてきています。

## 秩父地域における、間伐材などを有効活用した取り組み例

### ①木工品の製作



大勢の人に秩父産材の魅力を知ってもらうため、秩父の木材を活用した木工品が作られています。

### ②自然素材ウッドチップの普及活動



秩父の木材の安定的な利用を図るため、遊歩道のウッドチップ使用の普及活動が行われています。

### ③西洋ミツバチの養蜂巣箱製造



秩父特産品作りの推進のため、秩父の木材をつかった西洋ミツバチの養蜂巣箱で「第3のみつ」が製造されています。

### ④棺桶製造



木材を有効利用するため、秩父の木材「特に軽くて綺麗なサワラ材」で柩が制作されました。

### ⑤木の駅プロジェクト事業



「木の駅」に出荷された秩父の山に眠っている間伐材等を地域商品券で買い取り、地域活性化につなげていきます。

最新の取り組み状況についてはこちらをチェック!

秩父地域森林林業活性化協議会ホームページ「ちちぶ森の活人」内「森の活人取り組み事例」

<https://morinokatsujin.com/examples/>

